

## 海洋深層水の物理特性解明についての実験

平成26年6月13日 ShuzouArakaki 周超音波研究所 新垣 周三

URL <http://syuzou.awk.jp/>

初めに

アクアサイエンス研究所の製造する深層水製品は世界的に類を見ない調合技術、いわゆる海洋深層水自然湧昇理論で調合された水であり化学成分的にミネラルバランスが調律されている普通の水である。しかしその調律水を微量添加した水による生物利用活性化は非常に高い、それは化学的成分ではなく大きな物理的特性を有している水の作用と考えその物理特性の解明を始めた。最初に超音波診断装置での実験から開始し得られた情報をもとに次なる実験の磁場極性実験と進めていき次なる実験を積み重ねていく方式で述べていく、基本的に解明に向けてドアを開けた段階であることを理解して解釈されてください

### 深層水超音波観察実験

液体を医療超音波診断装置を利用してBモード10MHz観察を行ったときに無エコークリアーで観察される。機械的にキャビテーション発生を起こさせ反射散乱波が干渉し発生したキャビテーション現象(空洞化)の超音波干渉波の観察を行った結果、そのキャビテーションの発生頻度に差や静的状態に戻るときの時間や結果発生頻度や輝度に有意差を認めためたので報告します。

使用装置 本多電子製医療超音波診断装置 HS-1500



使用プローブ 5-7.5-10MHz マルチ周波数リニアプローブ  
設定 中心周波数 10MHz レンジ40mm 単フォーカス ゲイン96dB  
ダイナミックレンジ75dB モニターガンマr-1設定

検体 2リットルペットボトルに、水道水、深層水調合液60デシベル、80デシベル、100デシベル、1リットル充填



脱塩素脱気水道水  
トンネルフォトン水60dB  
トンネルフォトン水80dB  
トンネルフォトン水100dB

充填して静的に落ち着くまでそのままの状態ですべて7日保管

## 実験方法

### 1 検体作成

写真1に示すように検体容器は2リットルペットボトルに、水道水、深層水調合液60デシベル、80デシベル、100デシベル、マグロ集魚用XXデシベル（2013年6月製造デシベル表示非公開）を1リットル満たし空気を強制的に混入させるために強く攪拌した状態を作った

（写真1）



キャップをしっかり絞めて、強く振ることで強制的にキャビテーション発生を試みた



水道水はキャビテーション発生優位で肉眼観察可能

深層水（2013年6月製造マグロ集魚用）はキャビテーション発生軽微、数秒で肉眼観察は困難

## 2 観察の方法

写真2に示すように密着を良くするためにゼリーをプローブに塗布しラップをかぶせた。ペットボトルは平滑な面がペットボトル4隅にありそこにプロ部密着させ観察開始。観察レンジ50ミリメートル設定において、強制キャビテーション発生状態からリアルタイムに静的に落ち着くまで観察を行った

(写真2)

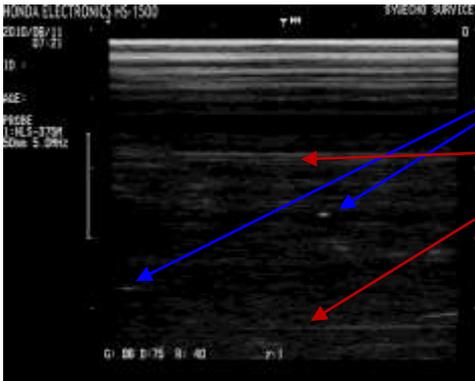


プローブにゼリーを塗りラッピング

ペットボトル平滑面に密着観察

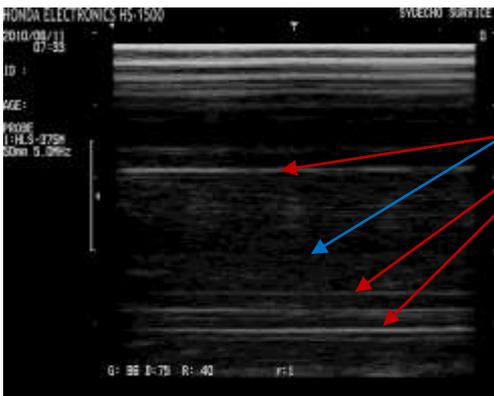
ペットボトル対角線状にビームを照射

超音波プローブを静かに密着観察、静的観察



高輝度信号が点滅して且つ移動して観察される

多重反射アーチファクト



高輝度信号は高く発生頻度は低い

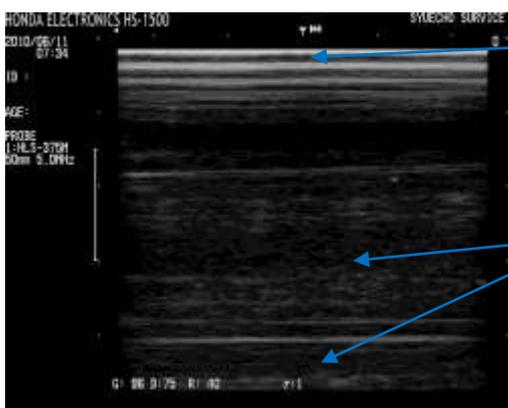
多重反射アーチファクトを明瞭に認める。水道水と同一場所に発生しているのでプローブビーム方向は同じ対角線状に照射観察したことがうかがえる

## 超音波プローブをポンピング密着観察、ダイナミックテスト観察



プローブ密着面はこちら側であり、プローブで振動を与えている

反対側（底面）より湧き上がるように発生したキャビテーションの渦が観察される



プローブ密着面はこちら側であり、プローブで振動を与えている

反対側（底面）に変化は感じられない  
数回テストを繰り返したがキャビテーションの発生は認められなかった

## 再度水道水ダイナミックテスト

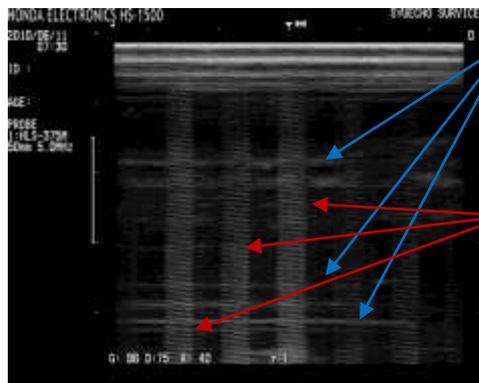


再度水道水に戻りダイナミックテストを行った。  
キャビテーションの発生、湧き上がりは  
見られる

その他の実験、

①超音波美顔器 1 MHz バースト波照射実験

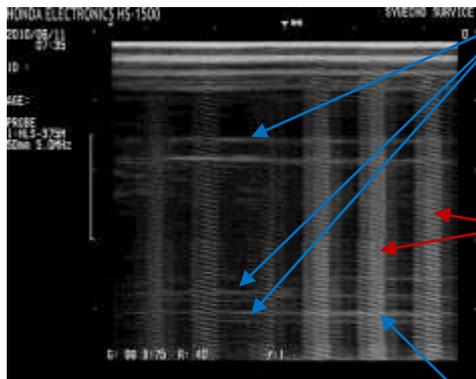
水道水



多重反射アーチファクト

バースト波を受信している

海洋深層水 Gmo

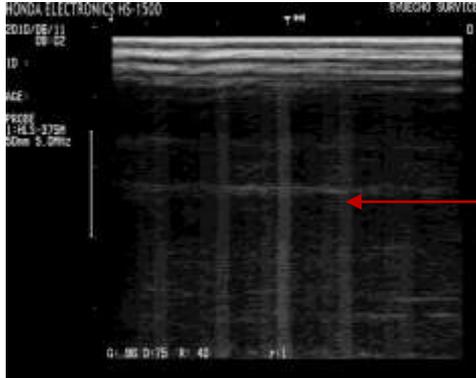


多重反射アーチファクト、水道水よりエコーレベルは高い

バースト波を受信している、水道水よりエコーレベルは高い

②超音波美顔器 1 MHz 連続波照射実験

海洋深層水 Gmo



バースト波は高輝度右傾斜縞模様を呈している

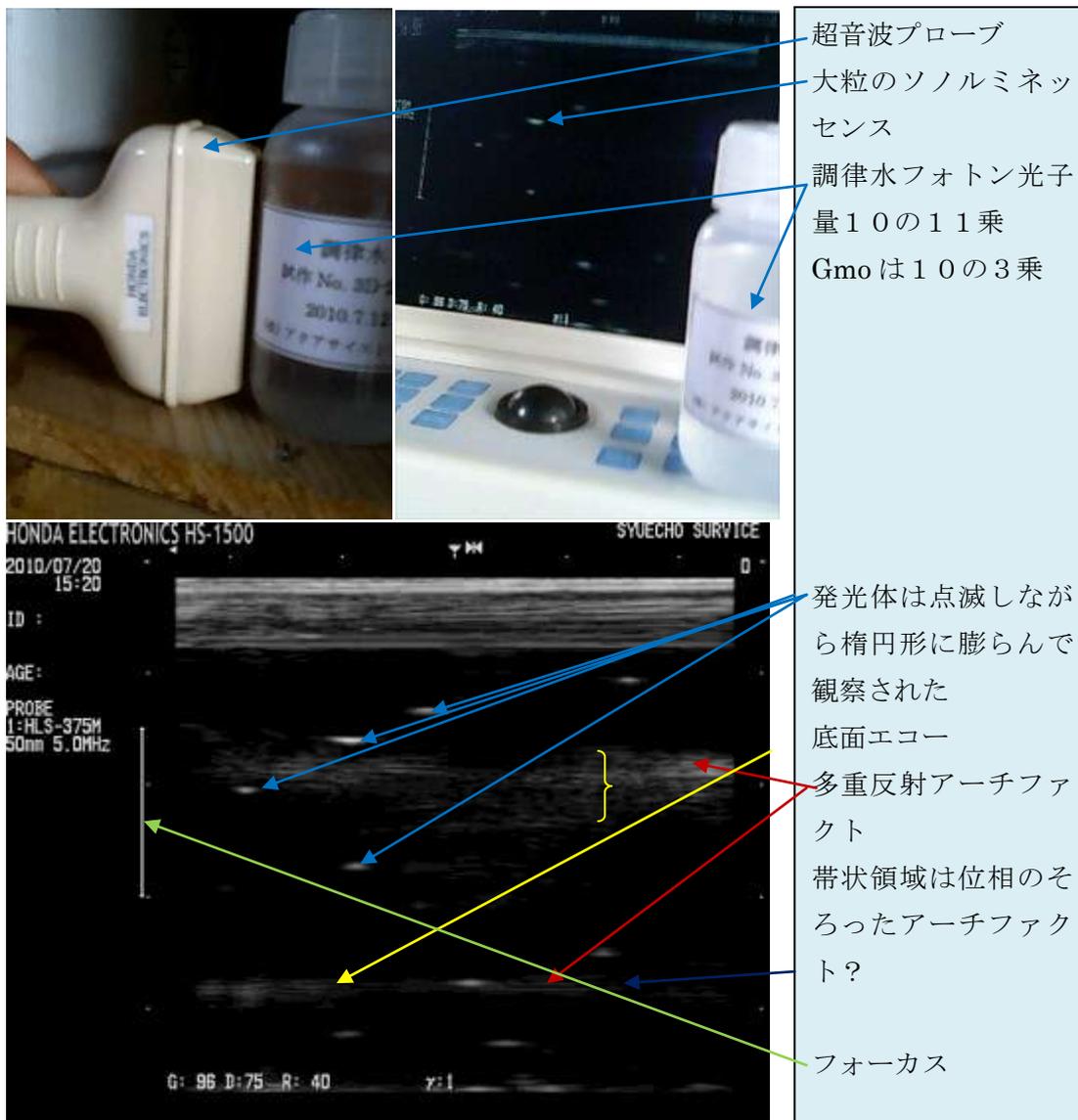
連続波は左傾斜縞模様を呈していてエコーレベルは低い

水道水に対して深層水の超音波透過性が良好なのでバースト波の受信輝度が深層水の場合上昇する。水道水と深層水の判別は可能

しかし脱気水や熟成した水（天然水）との判別は困難

超音波美顔器のエコーレベルおよび繰り返し照射周期の測定は可能

## 調律水テスト



実験に使用した調律水 220 デシベル ( $10^{11}$  乗希釈用) を使用した  
 超音波透過性は非常によく無エコークリアーな画面にキャビテーション発光を強く明瞭に認める。底面エコーはおよそ 38 mm 深に描出されており水そのものの音速で観察されている  
 深層水の調合濃度に比例して超音波透過性の上昇を認める

超音波透過性の上昇によりビームの衝突レベルも上昇し衝突位相のそろった位置においてキャビテーション発光を発生すると推測される

また、強い攪拌による強制的エアバブル発生時のキャビテーション終息タイムも深層水の調合濃度に比例して短縮タイム化で観察される。

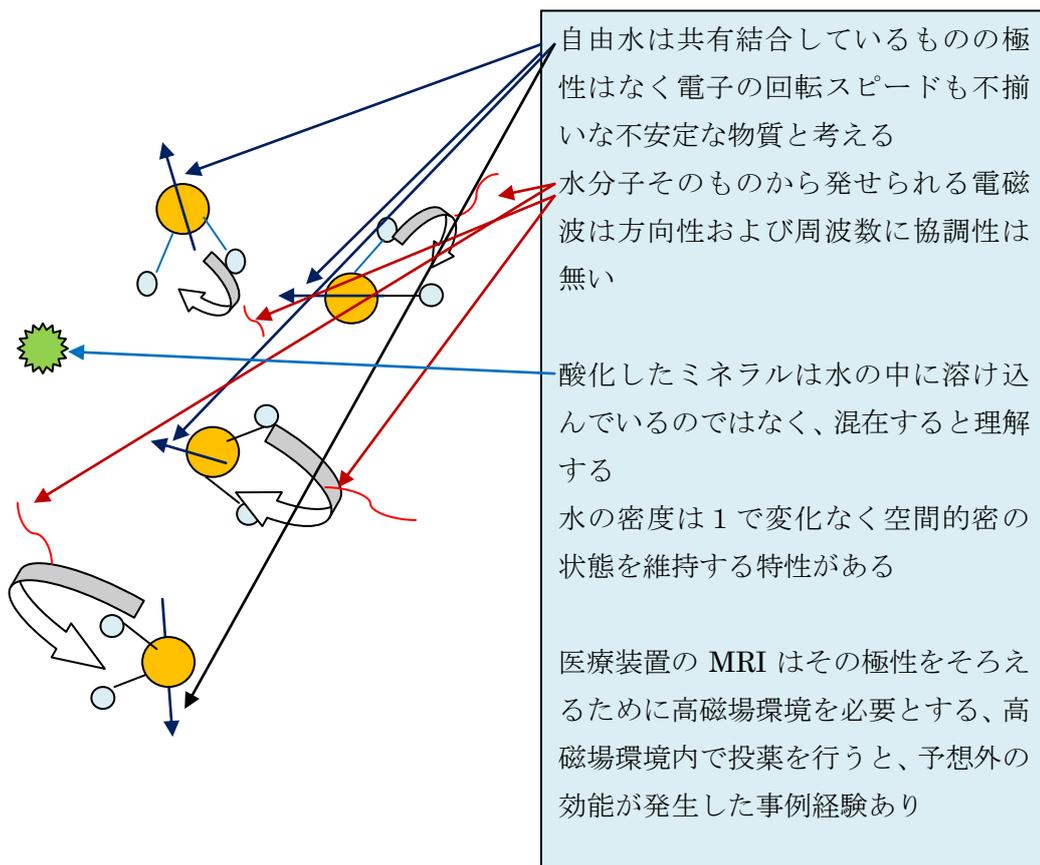
これは水クラスターマトリックスの大きさに比例するのではないかと示唆する

## 水クラスタのマトリックス構造化

水分子は図のように水素と酸素の共有結合で構成され、水素と酸素に分かれた極性を持つ

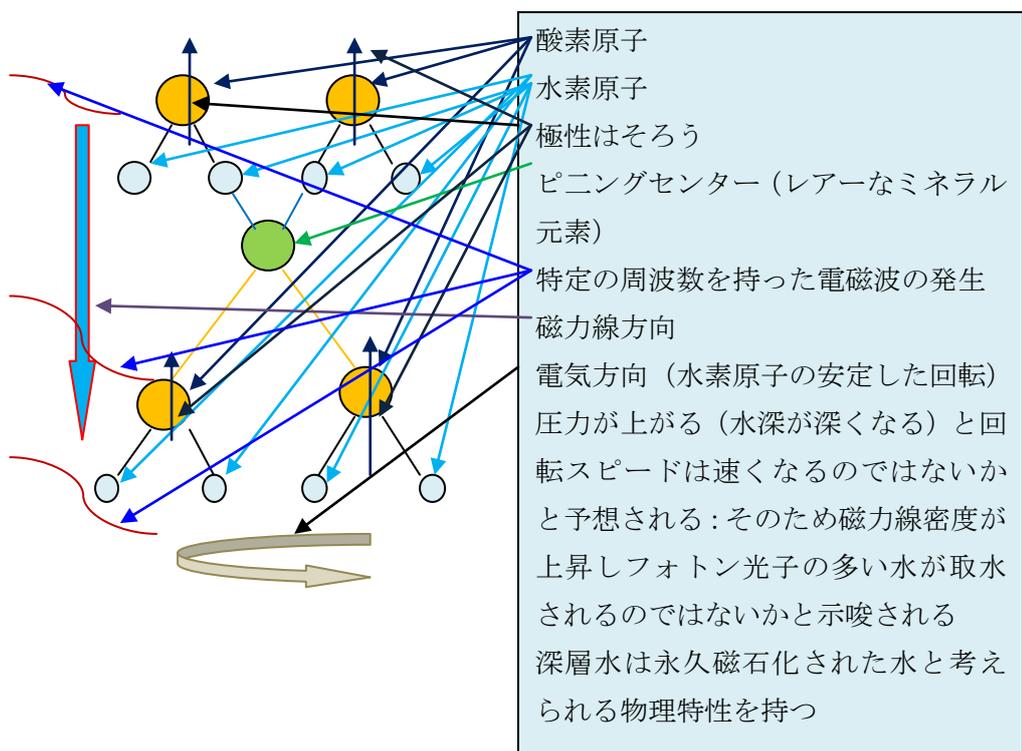


水道水などの未熟水はランダム極性の磁場であり電子双極線の位相は雑でそろっていない、そのため光子も方向性が無く拡散しエネルギー順位は低い



解説) 自由水(極性のそろっていない水:特に水道水)の密度は1であり、個々の水分子は自由に動き回り、粗雑な配列及び雑な運動を行っている。天然水は酸化したミネラル成分を有する、酸化したミネラルは安定元素となりエネルギーの伝達及び共有はなされないものと示唆する。酸化還元水は電気分解によりミネラル成分が還元された水と考える。

海洋深層水は圧力により分子密度は高いいわゆるクラスタの小さいマトリックス化された極性の磁場であり電子双極線の位相はそろい磁束密度もそろいいわゆる永久磁石化した水と想像する。そのためフォトン光子も方向性を持ち周波数の同調されたフォトン永久に放出し周囲の水に同期し調律をそろえる。Gmo は表層水、600m中層水、1400m深層水を調合して作られているので3種類のフォトン光子周波数を持ち合わせたハイブリッド調合と示唆する（とくに水深千m以深のミネラルバランスは沿直化し安定する：故にピンオンセンターの配列の整った磁場環境となる、そこに低温状態の水に1400トンの圧力をかけると永久磁化され且つ圧力に応じた磁力線密度の磁性体水が出来上がると考える）またバランスの良いミネラルバランス、これを超電導理論で考えた場合ミネラル成分がピンオンセンターとなり、安定した磁場を作っているのではないかと示唆する。マックスウェルの方程式とくに磁場境界面の条件等で理解に近付く



解説）海洋深層水を超電導水として解釈して述べていく。超電導素材は銅にマトリックス化されたレアメタルを配列することにより作られる。また、永久磁石は鉄のマトリックス化されたレアメタルを配列し高圧力高磁場環境で静剤することにより作られる。海洋深層水（千メートル以深さのミネラルバランスの鉛直化）永久磁石化された水として解釈すると説明可能となる。水圧力と酸化していないレアなミネラルバランスにより磁場強度の異なる深層水及び中層水は作られ、磁場強度の差を持つ水が生成されるものと推測する。3種の調合技術を必要としているのは磁場強度いわゆる磁束密度のマッチングを必要とする？

海洋深層水調合液 Gm0 の氷結特性検証

2011年11月24日発見の Gm0 方向性を持つ不均一氷結作用の記録

Gm0 500cc ボトルをマイナス40度環境下：地面に対して3本90度横置き冷凍庫内に粗雑配置で冷凍を行った：1本は斜め45度10度軸方向キャップ側上向き配置

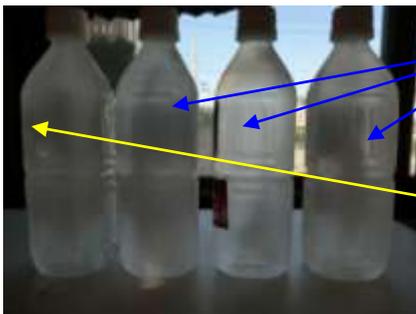


方向性を持つ隆起氷結



隆起している面は重力方向に対して180度逆で確認された

何故3面は平滑なのか、また3本中3本が全く同じ氷結になったのか  
重力に反するように隆起する特性を持つ



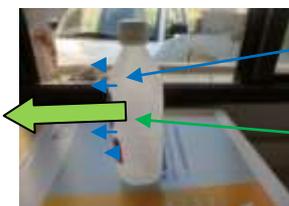
残り3面は形状整

斜め配置1本は斜め方向に隆起している。隆起の方向は重力に対して180度反対方向

2011年10月20日凍結形状変化実験（凍った状態で変形する）



ラベル左側に隆起して凍結したペットボトル (Gm0) のラベル側を上にして冷凍庫 (マイナス40℃) で3カ月静的保管した  
重力方向に反発して隆起していた面



隆起していた面は3カ月の保管で重力反対180度方向に矯正されている（まだ再現性の確認は2回）

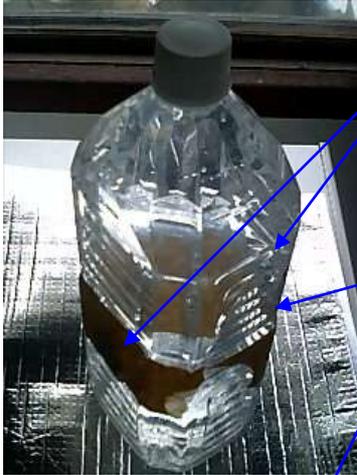
矢印は重力方向の正反対方向（地面に対して垂直且つ天空方向）

磁場環境を使った氷製造実験,

深層水の磁化特性（磁場の方向性）検証実験

1 深層水は磁化された水と仮定して、磁化されていない水道水を強制的に磁石を使用して磁場極性を持たせて氷結実験を行った

実験は NS 順目磁力線と NN または SS 対極磁力線方向の環境下での実験を行った



永久磁石をお互いに反発するように（NNセット）

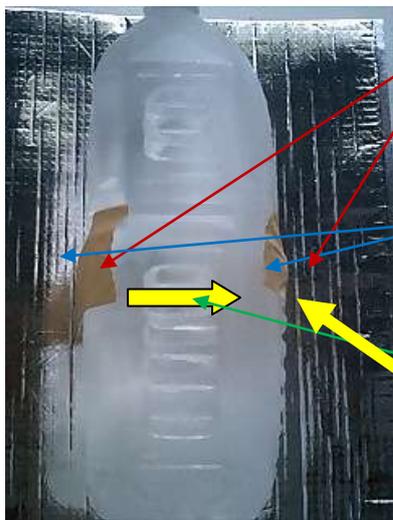
ペットボトルには水道水を充満しエア抜きを行っている

永久磁石をお互いに引き合うように（NS、またはSN対極セット）

-40度表示（実際にそれ以下の可能性あり）  
にて普通冷却開始 9月6日 14時開始

2 マイナス 40 度環境静的冷却 17 時間後

NS 純目方向磁場

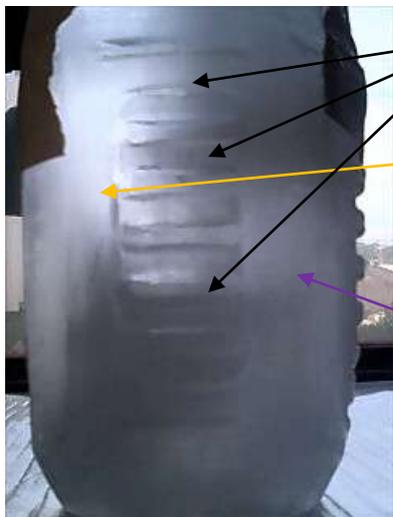


S 極側

N 極側

コンパスはこのように指針

コンパス N 方向に隆起を認める：これは深層水氷結実験にほぼ一致する

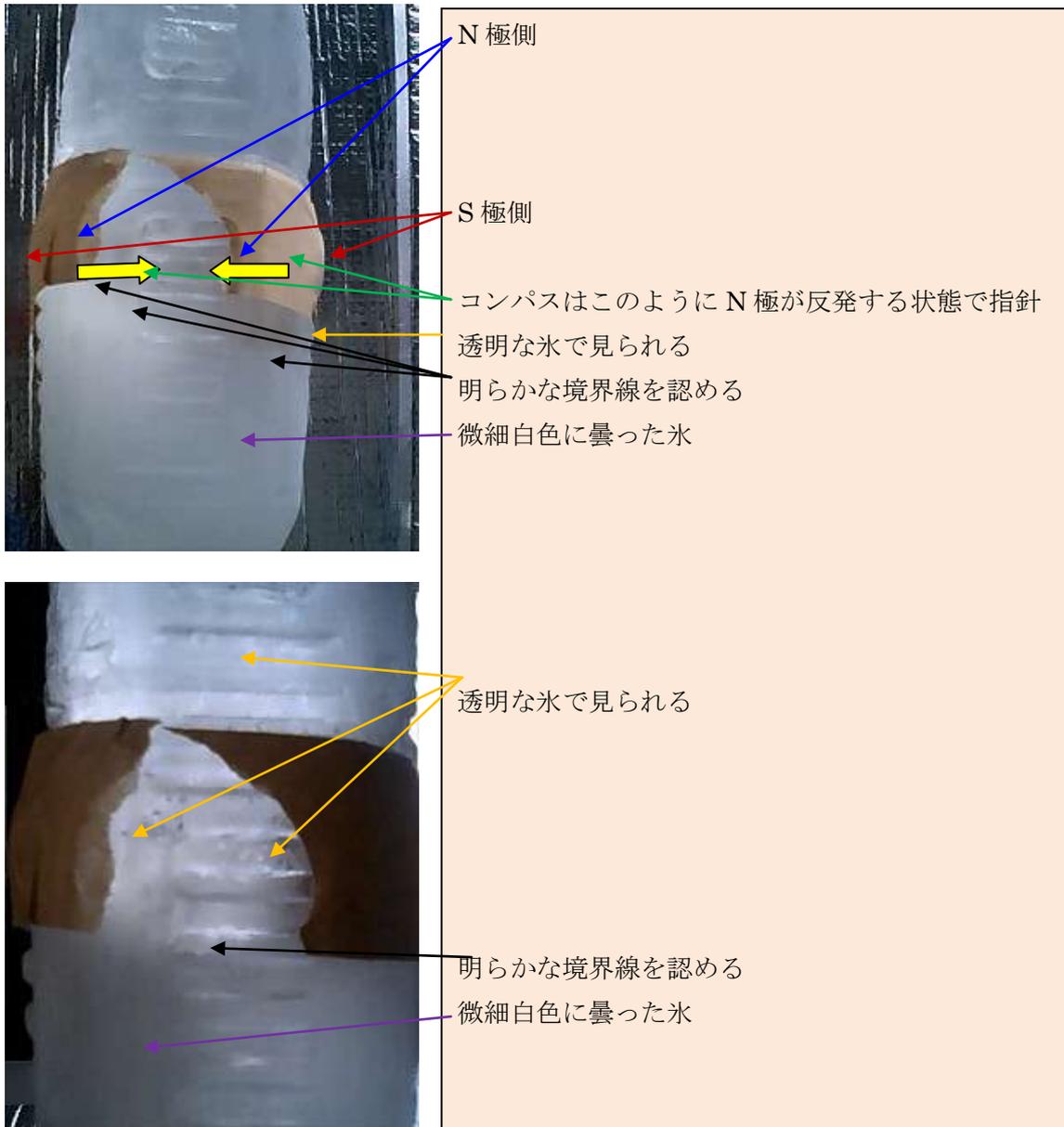


比較的直線的で明らかな境界線を認める

透明な氷で見られる

微細白色に曇った氷

## NN 対向反発磁場



### 解説

海洋深層水は永久磁化された液体と考えられる、深層水調合液が何故磁化されているかはその調合方法にあり、素材を壊すことなく調合するに尽きる。何故、他の海洋深層水が同じ現象を引き起こさないかの疑問に対して、通常は深層水を透析膜や電気泳動処理で重要ミネラル元素を取り出しており、深層水に含まれる極性を持った水そのものは廃棄されるからではないかと示唆する（通常の海洋深層水製品の利用目的はミネラルの抽出にある）

深層水の存在する深海は低温、高圧力、ピニングセンターとなりうるミネラル元素は豊富であり且つ、永久磁石製造の環境にマッチしている。

生命体の調律にその水の磁場サイクルの共鳴が関与するものと結論付けた

海洋深層水調合液 Gm0 の氷結特性検証

2011年11月24日発見の Gm0 方向性を持つ不均一氷結作用の記録

Gm0 500cc ボトルをマイナス40度環境下：地面に対して3本90度横置き冷凍庫内に粗雑配置で冷凍を行った：1本は斜め45度10度軸方向キャップ側上向き配置

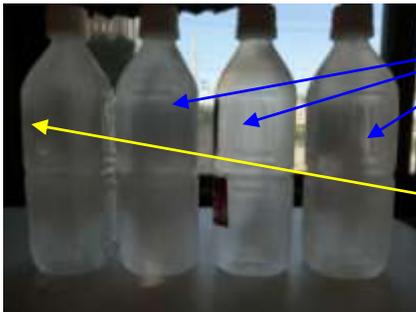


方向性を持つ隆起氷結



隆起している面は重力方向に対して180度逆で確認された

何故3面は平滑なのか、また3本中3本が全く同じ氷結になったのか  
重力に反するように隆起する特性を持つ



残り3面は形状整

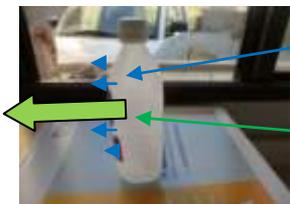
斜め配置1本は斜め方向に隆起している。隆起の方向は重力に対して180度反対方向

2011年10月20日凍結形状変化実験（凍った状態で変形する）



ラベル左側に隆起して凍結したペットボトル (Gm0) のラベル側を上にして冷凍庫 (マイナス40℃) で3カ月静的保管した

重力方向に反発して隆起していた面  
隆起していた面は3カ月の保管で重力反対180度方向に矯正されている (まだ再現性の確認は2回)



矢印は重力方向の正反対方向 (地面に対して垂直且つ天空方向)

つづきは 次なるイメージが湧いてから